

都市計画たより

令和2年度版



Hisaya-odori Park

目次

| | |
|---------------------------------------|----|
| はじめに | 1 |
| 令和2年度 都市計画検討グループの活動内容 | 1 |
| 令和2年度 都市計画検討グループ総会 報告 | 2 |
| 令和2年度 第30回 建設コンサルタンツ協会業務技術発表会 報告 | 3 |
| 令和2年度 都市計画検討グループ WG活動報告 | 4 |
| ・都市整備WG | 4 |
| ・交通WG | 6 |
| ・ランドスケープWG | 8 |
| ■参考1：これまでの都市計画検討グループにおける活動内容（会員参加型） | 10 |
| ■参考2：令和2年度 都市計画検討グループ会員及び各企画参加人数（会社数） | 11 |
| おわりに | 12 |

【表紙写真】

撮影：都市計画委員 石黒さん

はじめに

日頃は、都市計画検討グループ活動に対してご理解・ご協力を頂き、ありがとうございます。

今年度の都市計画検討グループでは、4月から会員の募集、都市計画委員会の活動が始まり、8月の都市計画検討グループ総会（メール配信）、11月の各ワーキング（以下WG）企画に対し、コロナ禍の中、また業務ご多忙の中、多くの会員の皆様にご参加いただきました。

会員の皆様のご協力・ご参加により、令和2年度の活動も無事終了しましたこと心より感謝しております。また、都市計画委員の皆様におかれましては、コロナ禍で活動方法が限定される中、創意工夫していただくことで各ワーキング企画を実現いただき、本当にありがとうございました。

今年度は何を行うにも苦勞しましたが、活動した内容を「都市計画たより」としてとりまとめましたので、ご高覧頂くとともに、来年度の活動の参考としていただき、ご意見等いただければ幸いです。

来年度も、皆様からの要望を踏まえて、「仕事の役に立つ魅力的な企画」を検討していく予定です。奮ってのご参加をお待ちしておりますので、引き続き、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

都市計画委員長 河村和紀

令和2年度 都市計画検討グループの活動内容

令和2年度は、下記の通り「会員参加型企画」及び「委員会活動」を実施しました。

1. 会員参加型企画

- 都市整備 WG 講習会（11/24） : 34名（16社）・・・P.4
- 交通 WG 講習会（11/19） : 26名（11社）・・・P.6
- ランドスケープ WG 講習・見学会（11/10） : 34名（15社）・・・P.8

2. 委員会活動

- 愛知県震災復興都市計画模擬訓練：アドバイザー派遣（8月）
- 業務技術発表会運営補助（10月）
- 建設技術フェア2020in中部 学生交流ひろば対応（10月）
- 建設コンサルタントフェア パネル展示支援（10月）
- 都市計画学会全国大会 エクスカーション・シンポジウム支援（11月）
- 発注者意見交換会（11月・12月）
- 都市計画委員会：毎月開催：（全6回、4月～12月）

令和2年度 都市計画検討グループ総会 報告

I. 開催日程等

日付：令和2年 8月 31日（月）

場所：（メール配信）

参加者：全会員

II. 総会の資料

1. 次第
2. 都市計画検討グループの位置づけと各会の役割
3. 令和元年度活動報告
4. 令和2年度活動計画（案）
5. 令和2年度各WG活動方針
6. 令和元年度決算報告と令和2年度予算（案）
7. 意見受付
8. 都市計画検討グループ名簿

令和2年度の活動計画

テーマ：都市計画を取り巻く動き、新しい情報の提供

活動方法：WG活動を主体にニーズに対応した見学会、講習会等の開催と交流の深化

合同WG：他の技術検討グループとの合同開催

都市計画検討グループの目的は「技術研鑽」と「技術者相互の交流」です。技術の研鑽を目標にして各グループ部員が集まり、お互いの交流の輪が広がる場づくり、学識経験者、官公庁、他の団体とも積極的に交流の場づくりができるように進めていきます。

令和2年度は、コロナ禍の影響を受け、WEB講習会などの新生活様式に対応した活動形式も積極的に取り入れた活動計画を立案し、社会貢献活動にもコロナ禍の状況を勘案して適切に対応していきます。

令和2年度の各WG別会員数

都市整備WG：99名（89名）

交通WG：50名（52名）

ランドスケープWG：47名（40名）

※（ ）は令和元年度の会員数

令和2年度 第30回 建設コンサルタンツ協会業務技術発表会 報告

10月14日(水)にウインクあいちにて業務技術発表会が開催しました。今年度は、コロナ禍の影響を勘案し、聴講者なしで発表会を行ったため、建設コンサルタンツ協会中部支部のホームページに動画をアップし、会員に配信しました。

業務技術部門では、都市計画分野として5編の発表がありました。そのうち、2編が最優秀賞と優秀賞を受賞されました。

◆ 最優秀賞

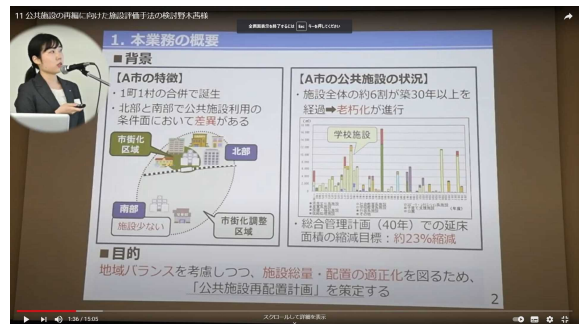
- 公共施設の再編に向けた施設評価手法の検討

中央コンサルタンツ株式会社

野木 茜 氏



【発表の様子】



【動画配信】

おめでとうございます!

◆ 優秀賞

- 都市公園における民間活力の導入検討

中央コンサルタンツ株式会社

田中 順己 氏



【発表の様子】



【動画配信】

おめでとうございます!

◆ 発表者

- 戸建住宅向けの低コスト・省CO2 排出地中熱利用システムの開発

株式会社 テイコク 児玉 光樹 氏

- 伊勢市における地域公共交通網の再編

玉野総合コンサルタント株式会社 山中 淳 氏

- 25GHz 帯無線 LAN 装置 5 台 LA 接続による大容量屋外無線 LAN 経路構築実証実験報告

株式会社 日本工営 益田 勝 氏

ありがとうございます!

来年度は、10月8日(金)ウインクあいちに開催予定です。4月から応募依頼開始します。奮ってのご参加お待ちしております。

都市整備WG

I. 開催日程等

日 時：令和2年 11月 24日（火） 14：30～16：30

講演方式：WEB

テーマ：スマートシティとこれからの都市計画：その論点とは with/post コロナの都市像を視野に

講 師：東京大学 工学系都市工学／先端研まちづくり研究室教授 小泉 秀樹 氏

参加者：34名（16社）

II. 活動概要

新型コロナウイルス感染症の拡大は、人々の生命・生活や地域経済に甚大な影響を与えています。新型コロナの危機によって、「都市における過密」という課題が改めて顕在化し、これまでの都市における働き方や住まい方等の見直しを迫られています。新型コロナの収束の見通しが不透明の中、これからの都市、さらには多くの都市で取り組みが始められている「スマートシティ」は今後どうあるべきか。

本講演会では、スマートシティや少子高齢社会の共創まちづくり等を専門とされる、東京大学の小泉秀樹教授に講師をお願いし、スマートシティの系譜と類型、日本におけるスマートシティの課題等について、国内外の先進事例の紹介も併せて解説いただき、コロナの時代における、リアルとバーチャルが連携した都市計画のあり方と目指すべきレジリエントな都市像について示唆をいただきました。そこには、「都市における多様な価値規範づくりとその実現においてバーチャルの進展をリアルに活かす、実験的な取り組みで人々の行動変容を生み出すことの重要性」が提言されました。

スマートシティの類型

- ・ 1.0: E-government Smart Government のながれ：1990年代の後半、政府行政セクターにもインターネットの活用が進んだ。政府行政運営の効率化を ICT 活用で図る E-government を自治体レベルで進めることを Smart City と呼んだ
- ・ 2.0: Smart Grid からエネルギーマネジメントのながれ：2007年ブッシュ政権で進められた米国スマートグリッド政策から派生し、効率的なエネルギーの利活用を可能とするシステムを導入した地域をさして Smart City 日本スマートシティとしては、むしろこのタイプが当初普及
- ・ 3.0: 都市自治体における官民連携によるイノベーション：アメリカでは 2012年スマートシティ構築の官民連携パートナーシップ SmartAmerica Challenge を実施、IoT 活用。EU でも同時期に同様の施策展開、日本ではやや遅れて政策支援
- ・ 4.0?: スマートないしはイノベティブ人材の集積する都市：LifeShift の著者であるリンダ・グラットン とアンドリュー・スコットらは、同書の中で、高い技術やデザイン力を有している人材が、スマートシティ、アメリカで言えば、シアトルやボストン、サンフランシスコなど、特定の都市ないしは都市圏に集中する傾向があることを指摘

スマートシティの課題

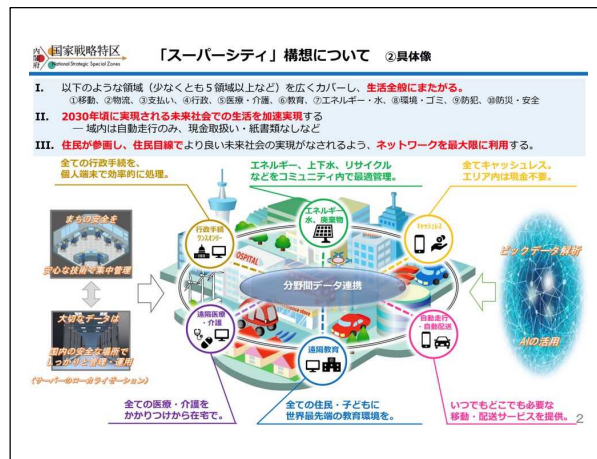
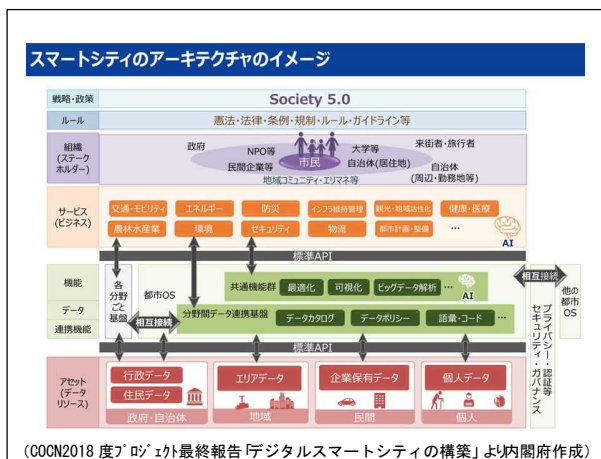
- ・ スマートシティ 1.0: E-government = 自治体内部での ICT 活用
- ・ スマートシティ 2.0: 大手 ICT 企業や不動産会社が寡占的に推進
 - ・ これまでは、環境対策（気候変動緩和・適応）やエネルギーマネジメント（省エネ・創エネ）の取り組みが主流 → 特定の公共（的）サービス領域での脱炭素化・効率化（スマートグリッド、オール電化、コジェネなど）
 - ・ IoT や AI の導入を通じた新しい都市サービスやイノベーションを促進する取り組みは始まったばかり
 - ・ MaaS や自動運転は個別的に実施（実験）している状況
 - ・ 主な対象は、新開発や大規模跡地再開発（利害関係者が限定的、柏の葉スマートシティ、藤沢 SST など）
- ・ スマートシティ 3.0 への展開が課題と言われている
 - ・ EU, US, 中国など IoT, AI → センシングによる「ひと、もの、かね、こと」の動きの把握

▲リモート講演・資料の抜粋

小泉 秀樹 氏 ▶
東京大学先端科学技術センターHPより



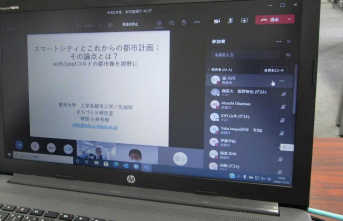
意見交換では、スマートシティやスーパーシティを具現化する際には、社会に対して多様なコミットメントを果たせる地域内外のスマート人材によるシビックテックの協働によるまちづくり土壌づくり、ICTを活用した参加型まちづくりプラットフォームの組成と住民のコンセンサスに基づく段階的なステップアップのまちづくり、行政の取り組みとして首長の理解とリーダーシップ、自治体職員の人材育成が重要であることを再認識しました。



▲リモート講演・資料の抜粋

多様なライフスタイルを有する住民とともに、段階的に新たな都市像を共有し事業を展開するにあたり、都市計画分野だけでなく、異分野の専門家と連携しつつ、プランナーとしての専門知識やまちづくりのノウハウ等をICTで活かし、都市計画・まちづくりを進められるコンサルタントの必要性も共有されたと思います。

WEBによる講演会で資料閲覧等に多少の不具合はありましたが、予定通り講演会を終了でき、参加いただいた皆さんには、有益な時間を共有頂けたことと存じます。こうした取り組みもコロナ禍の時代における取り組みの選択肢として今後の活動の参考にしたいと思います。



▲建コン事務局長の様子

令和2年度 都市整備ワーキング チャット ファイル + 参加

国 国井_長大 (ゲスト) 昨日 16:04
ある地域のまちづくりを行う場合、キーマンとなるようなスマート人材は対象地域の中から見つけるべきものなのでしょうか？外から連れてきても成功するものなのでしょうか？

株 株式会社オバ (ゲスト) 昨日 16:05
①ハロウィーンフェスは盛り上がりましたか？zoom飲み会はイマイチ盛り上がりには欠けませんが(笑)
②WithコロナのまちづくりとしてDUAL化があげられてますが、都市計画もそうなるのでしょうか。例えば用途地域による土地利用純化を図る一方、用途ミックスを許容し、多様性を求める仕組みになるとか。ただ今後、コロナ対策(ワクチン等)が進んだ場合、また戻る？

株 株式会社オバ (ゲスト) 昨日 16:13
③都市計画以外に必要な知識は？(これまでの延長線上ではないの？)

☺ (株) オバ(ゲスト)さんが会議に参加しました。

昨日 16:17
コロナを契機に働く場所にとられない居住地の選択がなされるようになることについて、今後人口減少を迎える地方都市ではチャンスととらえる自治体もあります。が、スマートシティは難易度が高いと言って足踏みしてしまっています。どのように考えたら、スマートシティに取り組みやすくなるのでしょうか？

▲チャットでの質問受付

交通WG

I. 開催日程等

日 時：令和2年11月19日（木） 10:00～12:00

開催方法：Zoomによるオンライン講習会

講 師：三輪哲夫 氏（元建コン中部支部都市計画委員長、元㈱日建設計計画部長）
大森和仁 氏（元建コン中部支部都市計画委員、㈱国際開発コンサルタンツ顧問）

テ ー マ：『技術者経歴50年の歩みと今後への提言』
- 熟練技術者の経験談と現役技術者へのメッセージ -

内 容：1. 講演（三輪氏）

- ①日建設計における約50年の履歴
- ②名古屋都市高速道路関連業務
- ③総合都市交通体系調査と交通需要推計
- ④セントレアPTBについて
- ⑤プロジェクトマネジメント業務
- ⑥現役技術者への提言

2. 対談（三輪氏 × 大森氏）

3. 質疑・意見交換

参加者：26名（11社）



▲三輪氏による講演

II. 活動概要

1. 講演概要

経済・社会情勢は大きく変化し、「交通分野」をはじめまちづくりを取り巻く環境や求められる役割も大きく変化してきています。近年の開発プロジェクトは、政策的な視点から進められることが多く、いわゆる「計画無きところの開発なし」の理念が薄れつつあり、あらためて「計画」のもつ意味や役割を考え直すことが求められているように思われます。

本講習会は、建コン都市計画委員として長い間ご活躍された熟練技術者の方を講師にお招きし、様々な開発プロジェクトに関わられた際の経験談や苦労話等を通じ、現役技術者への提言として「計画」の重要性をお話しいただくとともに、講師同士の対談を通じ、様々な視点からまちづくりや交通計画のあり方を考えていただく講習会を企画しました。

講演パートでは、三輪氏より日建設計での経歴からいろいろとお話いただきました。

名古屋市都市高速道路では、都市計画決定の道路計画が不可能というところからの方針変更の経緯や全国では異例の計画交通量にPTベースの推計値を利用したとの話がありました。

セントレアPTBでは、使いやすさの追求というコンセプトから搭乗口に至るフラットアクセスにした経緯や、自動車アクセスする1階カーブサイドの車道を歩行者が

フラット移動できるように横断歩道部の車道を盛り上げたことで、警察との調整が難航したとの話がありました。

レクサス店舗設計プロジェクトでは、トヨタ自動車から「海外で展開しているレクサスブランドを日本市場に導入するため、独自性のあるブランドイメージを持った販売店を2005年夏に全国一斉オープンさせたい。」との要請を受けて、150店のクオリティ、スケジュール、コストのマネジメントが求められたという類を見ないビックプロジェクトの話を知ることができました。

2. 対談

次の対談パートでは、三輪氏の講演を受け、講演の内容を掘り下げた質問や計画の考え方などについて意見が交わされました。

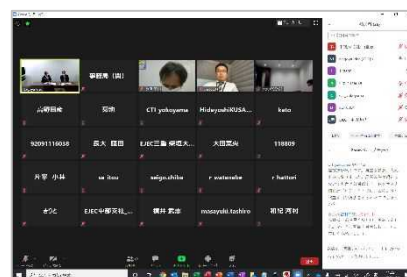
空港の施設計画の根幹的な思想は何であったかの問いに対し、需要喚起型とのことで、実は空港は世界的には航空利用費以外の収入が重要であるとのことでした。また、車社会を前提とした計画の今後についての問いに対し、新しいモビリティによる、たとえば自動運転などの技術によりまちづくりにもイノベーションが起きていくだろうとのことでした。



▲三輪氏と大森氏の対談

3. 質疑および講師によるメッセージ

レクサス店舗プロジェクトのようなビックプロジェクトの照査について質問があげられ、ご自身を含めた設計のコアメンバーが各担当からの成果や要望、修正などすべて対応していたとのことでした。150店舗という数とともに当時の業務量の凄まじさを感じました。また、名高速がセンサスベースでなくPTベースを採用している理由について質問があげられ、人の移動の起源から機関分担まで考慮した理論的な数値として採用されたなど、都市局、道路局の行政側の考え方も含めて、計画の根幹に関わる貴重な経緯を伺うことができました。



▲チャットによる質問受付

最後に聴講者へのメッセージとして、「若い人は特に一人で抱え込まず、先輩に聞くところは聞き、先輩も聞くよう意識すること（三輪氏）」「クライアントより半歩前に出て積極的に提案するよう意識してほしい（大森氏）」など、熱いエールもいただきました。

4. アンケート結果について

(1) 評価

「良かった・普通・悪かった」の3段階評価で、「良かった」が20名、「普通」が4名と良い評価が多い結果でした。

(2) 講習会の内容についての意見

近年では体験できないようなビックプロジェクトの経験談を非常に貴重な話として聴講できた、若手へのメッセージにとっても感銘を受けたなどの意見があり、興味深い講習会にできたと思われれます。中にはせっかくの超ベテランからの若手へのメッセージなので、もっと時間を費やした方が良いのでは（当講習会では最後の10分程度）との意見もありました。

(3) オンライン開催について

交通ワーキングとしては、初めてのオンライン開催の試みでした。マイク設定の不備により、聞きづらい場面があるなどありましたが、移動しなくて良いことや、オンラインなので気軽に参加できたなど、好意的な意見が多く、今後も積極的にオンライン開催を検討しても良いと思われれました。また、今回は事前の資料配布を行わないこととしましたが、資料配布が無く質問がしにくかったとの意見もあるため、今後の開催時には工夫が必要と思われれました。



▲講習会事務局の実施風景

ランドスケープWG

I. 開催日程等

日 時：令和2年11月10日（火）14:30～16:30

場 所：見学：Hisaya-odori Park（愛知県名古屋市）

講習：アクセア栄貸会議室

テーマ：コロナ禍で、我々が取り組むべきパブリックスペースのあり方について学ぶ

講 師：見学：名古屋市住宅都市局リニア関連都心開発部 都心まちづくり課 猪俣 氏

講習：日本大学理工学部建築学科 助教／（一社）ソトノバ共同代表理事・編集長
泉山壘威 氏

参加者：34名（15社）

II. 活動概要

近年、「居心地がよく歩きたくなるまちなか」の創出を目指して、まちなかウォークブル推進事業が創設されるなか、ウィズコロナ、アフターコロナを見据え、都市のウォークブルな空間とオープンスペースを組み合わせて歩行者のネットワークを形成することが重要となっています。街路空間や公園・緑地などの公共空間を活用し、地域の多様なニーズに応じて柔軟に活用することが必要であり、そのための公民連携の試行や人材の育成、ノウハウの展開が求められている状況です。

そこで、これらの活動を実践されている講師をお招きし、これまでの事例などを通して、今後、コロナ禍のなかで、我々が取り組むべきパブリックスペースのあり方について学ぶことを考え、見学会・講習会を実施しました。

見学会では、最新のパブリックスペースの事例として、Park-PFI を用いてリニューアルした「Hisaya-odori Park」を名古屋市の職員の方に案内・説明いただきました。地下のセントラルパークとのつながりや、シンボルである名古屋テレビ塔が園内のどこからでも見通せる配置、大型デジタルサイネージによる情報発信、水盤やミストによる都会的なビュースポットとゆったりした憩いの空間であるシバフヒロバなど、様々な人にとって居心地が良く、歩きたくなる新たな「久屋大通公園」の工夫がよく分かりました。

講習会では、以前より先進的な実践活動に取り組まれている講師の泉山様から「これからのウォークブルシティとパブリックスペース」というテーマで様々な事例を含め、具体的なお話をお聞きしました。体系的に整理された分かりやすい内容で、「空間をつくる人はいても、活用をコーディネートする人がいない」「日常が都市をつくる」「空間をつくってから何をしよう？ではなく、はじめに人のアクティビティを配置すべき」など、公共空間のデザインや利活用に関わる者にとって、非常に有用な考え方のヒントをいただき、多くの気づきが得られました。

日常的なパブリックライフを満喫できる暮らしやすいウォークブルな空間は、単なる場づくりではなく、地域に応じた交通条件のしくみや多様なアクティビティづくり、そして、コミュニティと人づくりが重要なことが分かりました。



▲見学会の様子(名古屋テレビ塔南)



▲参加者の集合写真(シバフヒロバ)



▲講習会の様子(アクセア栄貸会議室)

泉山先生への質問に対する回答（質問及び回答は原文ママ）

| | |
|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ◆空間は「計画・設計」から「使う」へ（ます人のアクティビティを配置する） | |
| 質問 | 様々なボトムを取り組みをどのようにアップさせて、まちづくりへ展開していくのでしょうか？ |
| 回答 | 行政主導の事例もあれば、地域とか企業が主導しているようなトップダウンなのかボトムアップなのかは、コンディションが地域によって違うと思うが、最終的に公民連携でやっていく体制になっていかないとできない。そのステージにどうあげていくのか。段階的な社会実験により階段を一個一個登っていきながら、効果測定と合意形成を積み上げていくことのかなと思っている。 |
| ◆パブリックライフ（都市でくつろぐ日常の場所とライフスタイル） | |
| 質問 | パブリックライフには「生活の質を向上するもの（にぎわい収益の創出に寄与するとは限らない）」と「都市再生に寄与するもの」があると思います。前者のパブリックライフを日本で一般的にしていく時に、利用者や管理者等の“意識（公共空間で自由に良いのか？他人にどう見られているか？等）”が都市に居場所を持つ上でネックになっている部分があると思うのですが、泉山先生はどのように思われますか？また、“都市でくつろぐ”を促進するために“意識づくり”が必要として、どのように市民等に意識を変えるきっかけを作ることができでしょうか？ |
| 回答 | エリアマネジメントと言われてからもう20年くらいになる。僕が学生だった時とこの10年くらいはエリアマネジメントと状況がだいぶ変わって、「エリアマネジメントって何？」みたいな状況から、もはや皆行政を含めて何でもかんでもエリアマネジメントやるみたいな状況になってきている。やはり、積み重ねと事例を作る事と、その普及だと思っていて、パブリックスペースとパブリックライフは一緒だと思う。例えば今学生は2000年生まれくらいで、その子たちが（都心にいれば）オープンカフェとか広場みたいなものをだいたい子どものころから見ている世代に段々なってきた。当たり前のようにそれがあつた（子供の頃からあつた）となると意識はだいぶ変わってくると思う。公園にしても、この5年でP-PFIとか設置管理許可とか増えてきて当たり前のように都心の公園は民間が使うようになってきているのも、相当市民の影響があると思っていて、場所・事例が増えることで意識は変わるんじゃないかと思う。 |
| ◆イベント（一時的）より日常を | |
| 質問 | イベントを作るより日常を作ることが大事という視点がとてもいいと思います。ただ、数回の社会実験で日常を作ることではできませんでしょうか？また、夏、冬の屋外利用の難しさも感じます。その辺り、参考になる使い方などは教えて欲しいです。 |
| 回答 | 冬に関しては、コロナでウィンターレイシズというコンペがあつたりするが、冬の公共空間活用を真面目に取り組み始めている。海外メディアでは「日本のこたつが使えるよ」と参照されていたり、最近のNYの冬のパークレットとかは、小屋を建てている（日本でいうと道路内建築みたいな形）。結局、冬の公共空間活用に投資するかどうかの判断になってくると思う。現在は、“コロナが換気が悪いので”という理由が使えるという意味で追い風でもあり、これをきっかけに冬の活用可能性がでてきているともいえる。ただし、北欧などは4、50年かけて寒い地域で文化性を根付かせており、積み重ねが大事だと思う。夏は、マレーシアで例えばベンチの整備をするときに壁面緑化も一緒にして、気温が1度下がったという実験をしているが、そのような環境と公共空間のかけ合わせの社会実験も大事だと思う。また、シンガポールのように「3時まで外に出ない。夕方から涼しくなったら夜も含めて公共空間も含めて使う。」という割り切りはあるのかもしれないと思う（公共空間は都市の一部なので）。 |
| ◆「組織・制度」より「人・事業」を先に考える | |
| 質問 | 組織や制度が先に考慮してしまっていることが、人や事業を先にするためにどのようにすればよいですか？ |
| 回答 | 近年、国が言っているエリアプラットフォームは、組織・制度から始めるという話。そういう地域の関係主体等と始めていくやり方もあるが、合わせて、社会実験を通して若者のスタートアップを醸成する等の補完をすることもあつた。サザハタハツでは、地元の市民の人たちが、プロジェクトの企画書をワークショップのような会を重ねて作成し、グループを組んで、なんとかチームのプロジェクトを審査して醸成する、みたいなことをやっている。昔のまちづくりファンドのプラス社会実験みたいなパターン。このように、行政がコンサル中心に社会実験をやるパターンもあれば、岡崎の乙川リバーフロントのように、1カ月間市民のアクティビティを実験するみたいな、やりたい人・やる人人を公募して、やっていくやり方もあるのかなと思う。 |
| ◆ステイクホルダーよりレイシズホルダーをいかに育てるか | |
| 質問 | ボトムの取り組みの一番初期の動き出しはどのように始まるものなのでしょうか？ |
| 回答 | ポイントクック（メルボルン）の例でもそうだが、社会実験が目的ではなくて、主婦が“自分の地域のつながりをまちとして作りたい”という市民生活に自分としても必要なことをしているだけ。だから、まちづくりのために誰も考えていなくて、“自分の生活がいかによくなるのか・自分の暮らしているまちがどうよくなるのか”ということには、皆モチベーションを少なからず感じていると思う。ただ、多くの市民は、それを思っているだけで行動できないし、行動できるとも思っていない。コンサル的にいうと、そういうニーズを拾っていくのが大事。ワークショップもそうだし、社会実験はエンゲージメントともいわれ、市民との関わりをいかに拾い上げるかという役割も社会実験になるが、そういうことをしながら、行動を起こしたいとモヤモヤしている人を焚きつけるのも効果的だと思う（社会実験の公募等）。 |
| ◆コンサルタントとして | |
| 質問 | 大学で学んだような設計のことではなく、泉山先生がおっしゃっていたエリアマネジメントを勉強したい、仕事に携わりたい場合、第一歩の行動として今から何ができるといいですか？ |
| 回答 | 夢はエリアマネ、パブリックスペースの社会人大学を作ること。それができれば是非来て頂きたい。本もいっぱい出ているし、ウェブの記事もあるので、自分の興味を持ったこと（エリアマネに関わらず）を掘り下げるというのがひとつだと思うし、それを発信することが大事。情報は発信する人に集まってくる。「こういう事例がある、こういうようなことを考えている」等、発信・拡散することで誰かが見ていて、それに対してコメントをもらったり友達がフィードバックくれたりとか。インプットだけではなくアウトプットすることで、また新たなインプットが得られる。そうすると段々その人の関心・興味がプロフェッショナルになっていき、自分の得意な領域になってくる。そうすると、コンサルの中でもそういう仕事が増えてきたり、それを任せたいという風になっていくというのがあると思う。受け身でなくいかに能動的に掘り下げて勉強・仕事をしていくかということかなと思う。 |
| ◆Park-PFIについて | |
| 質問 | あまり人気の少ないところで行うPark PFIやエリアマネは成立するでしょうか？上手く生かせる方法を教えてください。 |
| 回答 | 例えば、スタバだと昨年時点で15件（今はもっと増えている）全国の公園に出店していて、都心型のスタバもあれば、観光地等いわゆる不動産市場マーケットでは不利なところに出店していたりするケースもある。スタバのレクチャーを聞いた時に言っていたが、それはロケーション（湖が見える、桜が見える、富士山が見える等）が逆転させるんじゃないかな。つまり、人気がないとか地価が低いとか駅から離れている、みたいなときに、カフェから見える窓ガラスに何が見えるか等のロケーションがあれば、わざわざ車で、公園とかカフェにスタバくらいになってくると行くと思うし、スタバもそういうマーケティングをしている。エリアマネはちょっとまた違うが、僕がまだ研究として証明できていないですが、ウォークアブルとエリアマネはかなり関係あると思っていて、かなり歩行者中心のエリアでないとエリアマネはできないんじゃないかと思う。 |
| ◆参考事例について | |
| 質問 | 日本でもシェアードストリートのように人や車が共存できる空間活用をしているところがあれば教えてください。 |
| 回答 | 京都の三条通りのシンポジウムに出たが、補装はフラットになっていて、さらに無電柱化をしようとしている中で、地域のまちづくり協議会の人たちとストリートマネジメントを考えていくという取り組みをしている。ハード的にフラットになればいいということだけではなくて、民地とかの活用がセットになってくるし、店舗住民の人との参加とか活用みたいなことが大事になってくる。さっきのアデレード（オーストラリア）のパークストリートも結構カフェがあつたりする。ストリートは沿道も含めてなので、そういうのを京都でどれだけできるかというのがあるが、三条通りでやり始めようとしている。 |

■参考 1：これまでの都市計画検討グループにおける活動内容（会員参加型）

【委員会全体の講習会・見学会】

- H24：見学会 近江八幡市一水郷巡り、八幡重要伝統的建造物群保存地区
- H25：講習会「エリアマネジメント～街育ての担い手はだれ？」
- H28：講習会「人口減少が進む都市において中心市街地や郊外住宅団地の再生」
「持続性を確保するにはどのようなまちづくりを進めるべきか」

【都市整備WG】

- H23：全体講習会「事前復興計画のススメ…この国の明日を紡ぐ」
- H23：講習会「名古屋港と産業防災」
- H24：見学会「中心市街地の昨日・今日・明日」（愛知県東海市、半田市）
- H25：講習会「リニア中央新幹線と名古屋」
- H25：見学会（交通WGと合同）「公共交通を活用した地域活性化
及び歴史を活かしたまちづくり視察」（岐阜県恵那市）
- H26：講習会&見学会「伊勢河崎のまちづくり」「三重県防災拠点」（三重県伊勢市）
- H27：講習会「歴史的視点から見た集約型都市構造とは？」（PART1、2）
- H28：講習会&見学会「縮小期のまちづくり（豊川稲荷表参道・御油のマツ並木）」
（愛知県豊川市豊川稲荷）
- H29：講習会&見学会「錦二丁目まちづくり協議会」（愛知県名古屋市中区）
- H30：講習会「公共空間の有効活用と都市のマネジメント・維持管理のあり方」
- R 1：講習会「スポンジ化した地域の面的再生等へ向けた取組事例」（山形県鶴岡市）
- R 2：講習会「スマートシティとこれからの都市計画：with/post コロナの都市像」

【交通WG】

- H23：全体見学会「りんご並木が美しい丘の上のまち飯田」のまちづくりを体感
（長野県飯田市）
- H24：講習会「自転車利用環境整備を考える」
- H25：見学会（都市整備WGと合同）「公共交通を活用した地域活性化
及び歴史を活かしたまちづくり視察」（岐阜県恵那市）
- H26：見学会「最新の安全対策技術情報及び施工事例について」（愛知県阿久比町）
- H27：講習会&見学会「四日市市における交通環境の取り組みについて」
「東海道日永郷土資料館&四日市あすなろう鉄道」（三重県四日市市）
- H28：講習会「ビックデータの活用・可能性と展望」
- H29：講習会「自動運転が創る未来の都市交通のあり方」
- H30：講習会「道の駅をいかしたまちづくり・地域活性化と今後の展望」
- R 1：講習会「住みやすい都市空間デザインのための空間情報分析」（愛知県瀬戸市）
- R 2：講習会「技術者経歴 50 年の歩みと今後への提言」

【ランドスケープWG】

- H23：見学会「土木学会デザイン賞受賞公園の設計コンセプトを学ぶ」（岐阜県各務原市）
- H24：全体講習会&見学会 滋賀県近江八幡市での講習会・見学会
- H24：見学会 H22 講習会講師による愛知県半田市の現地見学会
- H25：見学会「あいちサトラボで里山づくり活動を学ぼう」（愛・地球博記念公園）
- H26：講習会&見学会「花フェスタ記念公園における指定管理者制度の現状と課題」
（岐阜県可児市）
- H27：講習会&見学会「公園における集客力を高める工夫を学ぶ」（愛知県刈谷市）
講習会「全国都市緑化あいちフェアはどこまで造れたか」
- H28：講習会&見学会「官民連携による公園の集客力を
高めた工夫を学ぶ（梅小路公園）」（京都府京都市）
- H29：講習会&見学会「最新事例からランドスケープデザインを学ぶ」
（草津川跡地公園・ラコリーナ近江八幡）」（滋賀県草津市、近江八幡市）
- H30：講習会&見学会「具体的事例をとおしてランドスケープデザインを学ぶ」
（太田川駅前どんでん広場）」（愛知県東海市）
- R 1：講習会&見学会「具体的事例をとおしてランドスケープデザインを学ぶ」
（天理駅前広場コフフン、道の駅レスティ唐古・鍵と史跡公園）」（奈良県天理市）
- R 2：講習会&見学会「コロナ禍で、我々が取り組むべきパブリックスペースの
あり方について学ぶ（Hisaya-odori Park）」（愛知県名古屋市）

■参考 2：令和2年度 都市計画検討グループ会員及び各企画参加人数(会社数)

表：令和2年度参加人数一覧表

単位(会員：人、会社：社)

| 項目 | 令和元年度 | | 令和2年度 | | 増減 (R1-H30) | |
|--------------|-------|----|-------|----|----------------|-----|
| | 会員 | 会社 | 会員 | 会社 | 会員 | 会社 |
| 都市計画検討グループ会員 | 181 | 28 | 196 | 28 | 15 | ▲4 |
| 合同WG | 52 | 12 | - | - | - | - |
| 都市計画検討グループ総会 | 52 | 20 | - | - | - | - |
| 都市整備WG | 36 | 12 | 34 | 16 | ▲2 | 4 |
| 交通WG | 35 | 15 | 26 | 11 | ▲9 | ▲4 |
| ランドスケープWG | 30 | 13 | 34 | 16 | 4 | 3 |
| 参加数(のべ) | 205 | 72 | 94 | 43 | ▲111 | ▲29 |

おわりに

会員の皆様のご協力のもと、令和2年度の都市計画検討グループの活動も無事に終わることができ感謝しております。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、講習会等の活動の可否、開催方法など課題が多くありました。

しかし、WEB形式の講習会を開催するなど、新たな活動方法を展開することができました。初めての経験で不慣れなこともあり、音声トラブルやタイムラグなどの課題も多くありましたが、どこからでも気軽に参加しやすいという意見もあり、改善に努め今後もWEB形式の講習会等を展開していきたいと考えています。

今年度は、新たな取り組みとして(社)日本都市計画学会とのコラボ企画(都市計画学会全国大会の支援)を行いました。コロナ禍での開催となったため、消化不良の感じは否めませんでしたが、引き続き、新しいことに取り組んでいきたいと思っております。

来年度も皆様の要望を踏まえ、「技術研鑽」、「技術者相互の交流」を目的に活動していきます。

令和3年度もよろしくお願いいたします！

都市計画たより 令和2年度版
発行日：2021年2月26日
発行者：都市計画委員会